



肢体不自由

事故による損傷や先天性の疾病などが原因で、上肢・下肢に欠損やまひ、筋力低下などが生じています。そのため、日常の動作や姿勢の維持が不自由になります。病気や事故で脳に損傷を受けた場合には、言葉の不自由さや記憶力の低下などを伴うことがあります。肢体不自由の中でも、脊髄損傷、脳性まひ、筋ジストロフィーなど全身に障がいがある状態を、全身性障がいといいます。

脊髄損傷……手足が動かないだけでなく、感覚もなくなり、体温調節が困難です。

脳性まひ……顔や手足などが自分の思いとは関係なく動いてしまう(不随意運動)に加え、発語の障がいがある人もいます。

筋ジストロフィー……全身の筋肉がだんだんと萎縮していく難病で、萎縮が進むと全面的な介助を必要とする重度身体障がいとなります。

摂食嚥下障がい……食べること、飲み込むことが困難なため、食べ物にトロミをつけたり細かく刻むなどの加工が必要です。



▲目の不自由な方のための音声コード



はいりよ
配慮

こんなサポートがうれしい!

困っていそうなときは積極的に声を掛けてください。

車いす使用者にとっては、狭い歩道やちょっとした段差が、移動を妨げる障害物となります。また、高いところにあるもの、床にあるものを取ることは困難です。「お手伝いしましょうか?」などとさりげなく声を掛け、どんな手助けが必要かたずねてください。

話が聞き取りにくい場合は確認してください。

脳性まひの人の中には、スムーズに話すことが難しかったり、顔や手足などが自分の思いとは関係なく動いたりしてしまうため、自分の意思を伝えるににくい人もいます。聞き取りにくい場合でも、分かったふりをせず、きちんと内容を確認してください。

子ども扱いをしないでください。

病気や事故で脳に損傷を受け、言葉がうまく話せない人に、子どもに対するような接し方をしないでください。また、手にまひや欠損がある場合は、細かな作業が苦手なため、動作に時間がかかることがあります。できる範囲で見守ってください。

話をするときは少しかがんでください。

車いすを使用しているときに、立った姿勢で話をされると相手を見上げなければならないので、疲労又は威圧感を感じることもあります。話をするときは、少しかがんで視線の高さを合わせることで、気軽に会話ができます。

事例

たとえば、こんなことがあります。

車いすを使用していると、スロープのすぐそばに荷物が置いてあったり、店舗内の通路が狭かったりして移動できない、商品棚が高くて欲しい商品を取ることができない、など不便なことがあります。そんなとき、周りの人から積極的に一声掛けてサポートしてもらえると、うれしいです。



【相談&問合せ先】

社会福祉法人鳥取県身体障害者福祉協会

公益社団法人全国脊髄損傷者連合会山陰支部

鳥取県肢体不自由児者父母の会連合会

一般社団法人日本筋ジストロフィー協会鳥取県支部

※詳しくは、障がい福祉関係団体一覧(P40)又は相談機関一覧(P42)をご覧ください。



▲目の不自由な方のための音声コード